

2020年

絵画 こども 大募集

～グランドホールこども美術食官～

グランドホールでは地域の小学生から「**しあわせ**」を描いた作品を募集し
当館ロビーにおきまして展示させていただきます。

また、ご応募の中から人気投票、ほかの賞を授与させていただきます。

だんじりのポスター・デザインでおなじみの六覺千手さんによるワークショップも開催予定

記

参加資格：泉州エリアの小学生（先着50名様とさせて頂きます）※参加費はいりません

作品は、メール、電話にてエントリー後、受付させていただきます。

※受付終了時には、岸和田グランドホールHPにてお知らせいたします。

展示場所：岸和田グランドホール ロビー
および、グランドホールフェイスブックページでデジタル公開

募集期間：告知 2020.7/1から 作品受付 7/25～8/2
郵送、または、グランドホールにご持参ください。



グランドホール
ホームページ

展示期間：2020.8/7（金）～16（日）（最終日は15時まで）
※作品返却8/30までに返却、お急ぎの方はお申し出ください。

テーマ：**しあわせ**（自分の思うしあわせを自由に描いてください）
※絵の中に説明文（文字）は書き込まないでください。

【記入項目】 作品の裏面（右下）に必ず氏名を書いて、以下の内容を添えてください。

- 1.氏名（フリガナ）
- 2.学年・学校名
- 3.年齢
- 4.性別
- 5.団体名（個人応募の場合は不要）
- 6.保護者氏名：連絡先：住所・電話番号・emailアドレス（団体応募の場合は団体連絡先：担当者）
- 7.タイトル、または、その絵を描いた理由、または、描いた感想（100字以内自由）

作品サイズ：ハーフ切りサイズ（27cm×39cm・縦横自由）の画用紙（一人1作品まで）
画材は色鉛筆・クレヨン・絵具・マジック・サインペンなど自由です。

投票と賞：ロビーにてお客様の人気投票を行い、投票数の一番多かった作品には
★セントジョーンズチャーチ賞 5名（1～6年生通して）
また、以下のゲスト賞も、もうけさせていただきます。
★六覺千手賞 ★ピンクリボン大阪賞 など

●参加賞：全員にアンシャンテの〈スノーアイス（氷菓子）〉

●表彰式：8/23（日）10時～ 実施予定（グランドホールにて）

受賞者（5名）には色鉛筆セット ゲスト各賞受賞者（2名）には、クオーカード500円分
上記7名に応募作品の画像で作成したカレンダー（10～12月）を差し上げます。
表彰式の様子は、弊社ホームページなどで公開します。

ふりがな	がっこう：
おなまえ (　　さい)	がくねん：
保護者様、または、団体名・連絡先/お名前（団体の場合ご担当者様名）	
住所（〒　　）	
電話番号	/メールアドレス
だいめい・タイトル または、その絵を描いた理由、または、描いた感想（100字以内自由）	

募集期間：告知 2020.7/1 から 作品受付 7/25～8/2

郵送またはグランドホールにご持参ください。

展示期間：2020.8/7～16（最終日は 15 時まで）

※作品返却 8/30 までに送付お急ぎの方はお申し出ください。

テーマ：**しあわせ**（自分の思うしあわせを自由に描いてください）

サイズ：ハツ切りサイズ（27cm×39cm・縦横自由）の用紙（一人1作品まで）

画材は色鉛筆・クレヨン・絵具・マジック・サインペンなど自由です。

※作品の裏面（右下）に必ず氏名を書いて、当用紙を作品に添えてご応募ください。

~~~~~切 り 取 り~~~~~

## 《絵画ワークショップ開催》

**だんじりポスターでおなじみの六覺千手さんの指導が受けられます。  
この機会にぜひお申し込みください。（要予約）**

**8/2（日）10:00～12:30 グランドホールにて**

※集合 9:45 グランドホール 1 階受付

※当日はできるだけ作品を仕上げて提出いただく予定です。

※間隔を保ち、換気、消毒にご協力お願いします。

参加資格：こども美術館に作品参加される保護者同伴でお越しいただける方。  
グループでのお申し込みも可能です。（1 グループ 5 名まで）

定 員：20 名 参加費無料

持 ち 物：鉛筆、消しゴム、絵の具セット、  
　　そうきん、水筒（のみもの）  
※マスクの着用をお願いいたします。  
※汚れてもいい服装でお越しください。

申込み：お電話にて受付  
0120-16-3390



### 意匠六覺千手

大阪南部を拠点に活躍するグラフィックデザイナー。岸和田の「だんじり祭」を中心に府内各地の祭禮に伴うデザインに携わる。中でもだんじり祭の絵の執拗なまでの描き込みは圧巻。作中にだまし絵や隠し絵を取り入れ遊び心を絶妙に加える事により、作者と鑑賞者との対話を試みている。その土地の人の心を如何に心地よく刺激するかが作品制作概念である。企業や祭礼団体から個人の受注まで幅広く手掛け、「生活に密着した芸術作品」を発表し続けている。フリーーターとして「泉州美人」の編集長として編集・撮影・意匠も手掛けている。

